

イベントの趣旨

昨年7月7日に国連で核兵器禁止条約が採択され、9月20日に署名開放されて以来、1年がたちました。同条約をめぐり、それに賛成する国と反対する国との間では、依然として立場に大きな隔たりが見えます。また、グテーレス国連事務総長は本年5月、新たな軍縮アジェンダを発表しました。こうした中、日本を始め各国政府や国連には何が求められているのでしょうか。

また、唯一の戦争被爆国である日本の市民一人ひとりに何ができるのでしょうか。国連が定める「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」（9月26日）を前に考えます。

パネルディスカッションのテーマ

今回のイベントでは、「軍縮教育の可能性－核兵器廃絶と市民社会」をテーマに、パネリストが参加者を交えて議論します。

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）には、「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」との記述があります。

昨年国連で採択された核兵器禁止条約の前文には、「あらゆる点での平和及び軍縮教育の重要性並びに核兵器が現在及び将来の世代にもたらす危険及び帰結についての意識を高めることの重要性を認識し」との一節があります。

平和や軍縮をめぐる教育に関するこうした国際的な認識の表明を受け、政府、国連などの国際組織、学術機関、市民社会、そして私たち一人ひとりは、その可能性を発揮させるために、どのような参加や貢献ができるのでしょうか。

メモ

9.26「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」記念イベント

核兵器なき世界へ向けて

～ 被爆国の役割を考える ～

日時：2018年9月24日(月・祝)

16:30～19:00

会場：明治大学駿河台キャンパス

リバティホール（リバティタワー1階）

■所在地

東京都千代田区神田駿河台 1-1

■アクセス

JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分

東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分

都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分

主催：核兵器廃絶日本 NGO 連絡会

共催：国連広報センター

協力：ヒバクシャ国際署名連絡会

明治大学法学部

本イベントにおける関係者以外の撮影や録音はご遠慮ください。

Japan NGO Network

for Nuclear Weapons Abolition
核兵器廃絶日本NGO連絡会

プログラム

第一部 (16:30～)

一、主催者挨拶

森瀧 春子 核兵器廃絶日本 NGO 連絡会共同世話人

一、挨拶

小林 正美 明治大学副学長

一、外務大臣メッセージ紹介

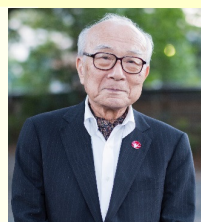
今西 靖治 外務省軍備管理軍縮課長

一、講演

「核兵器廃絶への道筋に光は見えた」

田中 熙巳 氏

日本原水爆被害者団体協議会代表委員



一、トーク



ゲスト **吉永 小百合 氏**
俳優

川崎 哲 氏

ICAN 国際運営委員
ピースポート 共同代表



第二部 (17:35～)

一、パネルディスカッション

「軍縮教育の可能性—核兵器廃絶と市民社会」



モデレータ **根本 かおる 氏**
国連広報センター所長



今西 靖治 氏

外務省軍備管理軍縮課長



土岐 雅子 氏

ミドルベリー国際大学院
ジェームズ・マーティン不拡散研究所研究員



工藤 恭綺 氏

ナガサキ・ユース代表団第6期生

一、閉会の辞

朝長 万左男 核兵器廃絶日本 NGO 連絡会共同世話人